

令和4年度 大泉中学校 学校経営計画	
I 学校教育目標	
1 健康～心豊かで健康をめざす人（忍耐力をもち、明るく秩序ある学校生活をおくる生徒） 2 誠実～自分も他人も大切に人（自他ともに互いの良さを認め合い、真剣、前向きに取り組む生徒） 3 努力～進んで学習に励む人（主体的・対話的な学びに率先して取り組む生徒）	
II めざす学校像、生徒像、教師像 「人は学ぶ」「人は変わる」「人は輝く」	
○学校像	・ 信頼と誇りのある学校 ・ 感動、感謝、モチベーション（やる気）を維持する学校 ・ 明るく、元気なあいさつと返事がしっかりできる学校
○生徒像	・ 主体的・対話的な学びに率先して取り組む生徒 ・ 自他ともに互いの良さを認め合い、真剣、前向きに取り組む生徒 ・ 忍耐力をもち、明るく秩序ある学校生活を送る生徒
○教師像	・ 主体的・対話的で深い学びの実現をめざし授業改善を追求する教師 ・ 協調と協働を根底に置き、情熱と使命感に燃える教師 ・ あきらめない生徒指導に徹し、信頼される教師
III 学校の現状と課題（令和3年度学校評価より）	
<p>本校は都内でも有数の大規模校であり、空き教室は1つもなく、少人数授業の展開や理科室での実験等が存分に行えない。また、3密をつくらない教育活動の展開も難しい状況にあるが、コロナ禍前と変わらず、落ち着いたある学校生活を堅持している。これは、全教員による休み時間中の生徒の見守りと始業2分前の着席、チャイムと同時に授業開始という姿勢を貫いてきたことなどがあげられる。</p> <p>令和3年度末の学校評価アンケート等からみられる課題は以下の項目である。</p> <p>■学習指導についての課題 ①ICT機器の効果的な活用と教員のスキル向上 ②3年対象の「地域未来塾」の開設、家庭学習の充実 ③各教科の評価精度の向上。</p> <p>■生活指導等についての課題 ①不登校傾向のある生徒の縮減 ②コロナ禍における学校行事の工夫 ③特別支援学級と通常学級との生徒交流</p>	
IV 中期経営目標（3～5年を見通した目標や方策）	
I 生徒	
(1) 個別最適な学びと協働的な学びの実現 ①「大泉中学学習スタンダード」を活用し、基礎的、基本的な知識・技能を確実に定着させるために授業の構造化を図り、ICT環境の活用や指導方法、指導体制の工夫改善により、個に応じた重点的な指導を行う。 ②生徒の興味・関心等を踏まえて、個に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を設ける。 ③探究的な学習や体験活動などを通じて、読み解く力や自分の考えをまとめる力、分かりやすく表現する力等を高め、多様な他者と協働しながら課題等を解決する能力を身に付けさせる。 ④学習活動の中で個々の生徒の実態を適切に把握するとともに、生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるような指導や支援を行う。 ⑤ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境を整え、合理的な配慮を行うことにより、生徒が集中して授業に取り組める清潔で快適な学習環境の整備に努める。	
(2) 豊かな心の醸成 ①生徒間および教師と生徒が互いの人格を尊重しながら信頼関係を築き、生徒一人一人が自己有用感をもてるよう、学年・学級経営計画に基づいた学級経営を充実させる。 ②全教育活動を通して大泉中の「イズム」を継承させ、望ましい人間関係を構築させるとともに、基本的な生活習慣「あじみこし」（挨拶・時間・身だしなみ・言葉・姿勢）を浸透させる。 ③道徳の授業を中心に規範意識や思いやりの心を育成するため、生徒が道徳的価値を多面的・多角的に理解するように「議論する道徳授業」など指導方法を工夫し、学習記録を蓄積することにより生徒の変容を的確にとらえて評価する。 ④生徒・教師の言葉や掲示物等の言語環境を整え、「言葉」を大切にできる態度をはぐくむ。 ⑤いじめの未然防止に向けて「学校いじめ防止基本方針」「SNS学校ルール」に基づく指導の徹底を図り、いじめ対策委員会による組織的な対応、家庭との連携による指導を推進する。 ⑥特別支援学級と通常学級との交流や共同学習により、互いに認め合い、励まし合い、高め合う人間関係をつく	

る。

- ⑦特別な支援を必要とする生徒について、特別支援校内委員会を中心に、巡回指導教員と連携して個別指導計画および学校生活支援シートを作成し、合理的な配慮に基づく支援を充実させる。
- ⑧不登校傾向のある生徒について、生活指導部を中心に、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員を活用した支援や指導を行うとともに、スクールソーシャルワーカーや民生児童委員など関係機関との連携を強化し、個別の状況に応じたきめ細やかな支援を充実させる。
- ⑨小中連携では、9年間を見通した一貫した指導や、いじめ・不登校の防止など豊かな心の育成に向けた取組を実践し「目指す15歳の姿」を実現させる。

(3) 健康と体力の増進

- ①感染症予防の徹底や新しい生活様式を踏まえた衛生環境の整備と、生徒の健康作りを推進するための保健、給食年間計画等の作成と意図的な指導、学校保健委員会や栄養士を活用した食に関する指導や、食物アレルギーへの対応・対策を徹底する。
- ②発達段階に応じて喫煙防止、薬物乱用防止教育等を適切に実施する。
- ③「学校2020レガシー」の構築に向け、「障害者理解の促進」「ボランティアマインド」の醸成に向けた取組を推進するとともに、オリパラ教育で学んだ「スポーツ志向」の育成を継続する。
- ④部活動は全教員が顧問となり、外部指導員等を活用しながら指導の充実を図るとともに、部長を中心に生徒が主体的に活動する場となるよう指導する。
- ⑤安全管理と事故防止を徹底し、自然災害や事故発生時の対応訓練を年間計画に基づいて確実に実施するとともに、小学校、保護者、地域、関係機関との連携に基づく防災訓練を実施する。

(4) キャリア教育の視点に立った進路指導

- ①学校・地域連携事業や外部人材を活用した講話や職場体験学習などを通して、学習内容と職業を関連付けて捉えさせ、社会的・職業的自立に向けて必要な態度や能力、生き方について考えさせる。
- ②特別支援学級と通常学級との交流や福祉体験、ボランティア体験等を通して、共生社会の実現や社会貢献について考え、行動する力を養う。
- ③3年生については、自己の生き方について考え、卒業後の進路について明確な目的意識をもたせて進路選択ができるようガイダンス機能の充実を図る。

(5) 豊かな国際感覚の醸成

- ①各教科、特別活動などとの関連の中で、日本の伝統・文化理解教育を推進し、我が国と郷土を愛する気持ち、誇りに思う気持ちを醸成する。
- ②全教育活動を通して、他国の伝統・文化や人種を尊重する心や国際社会の一員として社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成する。
- ③英語科の授業ではALTの活用を推進し、英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、イングリッシュキャンプや東京英語村での体験活動を通して、英語を学ぶ意欲や英語力の向上を図る。

V いじめ問題等への対応

- ①学校いじめ対策推進委員会を中心として、いじめの未然防止、早期発見・対応・解決を目指した取組を「大泉中学校いじめ問題対策方針」とし、全教職員が保護者や学校関係者と一体となり、いじめの根絶に努める。
- ②「いじめに関するアンケート」を工夫して行い、生活指導部会で情報共有するとともに、スクールカウンセラーやふれあい相談員を活用しながら、いじめの早期発見・解決に努める。
- ③悪質ないじめや集団的な暴力等は警察等と連携し、問題行動の解決と再発防止に向けた取組を推進する。
- ④地域・家庭との連携を深め、学校や家庭のSNSルールを見直し改善するとともに、望ましいインターネットや携帯電話、タブレット端末の使い方についてルールやマナーを理解し、守ることができる態度を養う。そのため、セーフティ教室や情報モラル教室、保護者対象の情報モラル講習会等を開催する。

VI 体罰・暴言への組織的対応

- ①教職員が「体罰は重大な人権問題である」との認識に立ち、日頃から研さんを積んで指導力を磨き、相互に体罰を許さない学校風土を醸成する。
- ②指導困難な生徒への対応に関しては、個人ではなく組織的に対応する。
- ③年間3回以上の服務事故防止研修を実施し、体罰や不適切な指導についての研修を実施するとともに、体罰調査や相談窓口を生徒や保護者に周知して問題の早期把握と対応に努める。

Ⅶ 令和4年度の達成目標と具体的方策		
重点的な取組事項—1	学力向上～何を学んで、何ができるようになったのか。	
目 標	具体的な方法	評価方法・AB評価目標値 ()内は令和3年度実績
①大泉中授業スタンダードを踏まえた「わかる授業・魅力ある授業」の展開と「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざした授業の追求	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の構造化による学習課題やポイント、流れの明確化、可視化 (ICT 機器の活用) ・生徒一人一人が思考・判断・文書などに表現する場面を取り入れた課題解決型授業の実践 (生徒タブレット端末の活用) ・少人数生徒による協働的な学習活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆評価項目 4～7 の肯定的評価平均 90%以上(82.6%) ・評価項目 7 の肯定的評価平均 75% (65.8%)
②新教育課程を踏まえた年間指導計画・評価計画の作成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画と評価計画の見直し、改善と年度当初の開示。 ・評価の信頼性・妥当性を追求するための評価材料の明確化。 	◆保護者質問紙調査項目 4 と 5 の肯定的評価平均 90%以上 (86.1%)
③基礎学力の定着と家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や単元テスト、小テストの予習など課題の提示 (週 50%以上) ・生徒タブレット端末のオンライン学習教材の活用 ・定期考査前や長期休業日の質問教室や補充学習の実施 	◆質問項目 3 (家庭学習に意欲的に取り組んでいる) の肯定的評価 55%以上(昨年度 52.5%)
④学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・漢字・数学検定等の奨励 ・検定試験前の対策教室の実施 ・全教員や SSS による積極的な支援 ・実施方法の適切な設定 	◆受験率等 前年比 5%向上
重点的な取組事項—2	豊かな心の醸成	
①個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学年経営案、学級経営案による意図的、計画的な学年・学級経営 ・年度当初に全生徒対象の教育相談 ・年 2 回の個別面談の実施 ・基本的な生活習慣「あじみこし」の指導 ・達成感のある学校行事の実施 	◆保護者質問紙調査項目 6 と 9、10 の肯定的評価平均 95%以上 (93%)
②「特別の教科 道徳」の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく意図的な指導 ・道徳的实践力向上のための指導法改善 ・道徳的価値を多面的、多角的に理解するための活動の充実と記録の蓄積 	◆保護者質問紙調査項目 11 と 13 の肯定的評価平均 93%以上 (89.8%)
③教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ不登校の出現率ゼロを目指した教育相談、個人面談等の実施 (年間 2 回) ・1 年生全員を対象とした SC による面談の実施 	◆保護者質問紙調査項目 14 の肯定的評価平均 90%以上 (84.8%)
④特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習の充実 ・校内委員会での情報交換、巡回教員や SC、専門員との連携による個別支援の充実 ・個別指導計画に基づく指導の実施と結果の検証、PDCA サイクル 	◆保護者質問紙調査項目 17 の肯定的評価平均 85%以上 (74.9%)

⑤いじめ問題の防止と適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく未然防止指導の徹底と月1回の実態調査の実施 ・校内いじめ対策委員会を中心とした組織的で迅速な対応、いじめの解消・解決 	◆いじめ・不登校の発生・出現率0%を目指す指導
重点的な取組事項—3	健康・体力	
①生徒の健康づくりと体力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた体力づくりの実施 ・区の部活動の在り方に関する方針に沿った部活動指導の充実。(全教員で補充する) 	◆保護者質問紙調査項目15の肯定的評価平均95%以上(93.6%)
②安全管理と事故防止の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく、様々な状況を想定した避難訓練等の実施 	◆保護者質問紙調査項目11と16の肯定的評価平均95%以上(93.7%)
重点的な取組事項—4	キャリア教育	
①体験的な学習活動によるキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に沿った発達段階に応じた体験的な学習活動の充実 ・校外学習等による日本の伝統文化体験学習 ・ALTや東京英語村、英語キャンプを活用した国際交流の実施 	◆保護者質問紙調査項目7の肯定的評価平均90%以上(82.9%)
重点的な取組事項—5	小中一貫教育の推進	
①小中一貫教育研究実践校としての取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指す15歳の姿」を実現させるための校區別協議会の充実 	◆保護者質問紙調査項目19の肯定的評価平均70%以上(58.5%)
重点的な取組事項—6	教職員	
①授業改善と授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により、生徒の「学びに向かう力」を高め、思考・判断・表現力を高める授業改善 ・1人1回以上の研究授業の実施 	◆教員の自己評価平均90%以上
②新学習指導要領に基づく指導と評価についての研究		
③服務事故の根絶	<ul style="list-style-type: none"> ・体罰や不適切な指導の根絶に向けた服務事故防止研修の実施(年間3回以上) 	◆服務事故発生率0(0)%
重点的な取組事項—7	保護者・地域から信頼される学校づくり	
①学校・地域連携事業の積極的な運用	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの連携による地域人材の積極的な登用と活用 ・土曜日の公開授業や各種行事の内容の工夫による保護者参観者の増加 ・生徒会や部活動を中心とした地域ボランティア活動の充実 ・PTA活動や地域行事等への全教員の参加・協力(年1人1回) ・学校だより・ホームページの定期的な発行・更新と記事の多様化(毎日) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者質問紙調査項目12の肯定的評価平均95%以上(89.2%) ◆保護者の参加率前年度比10%向上 ◆保護者アンケート回収率80%以上(49.3%)
②土曜日授業の内容の充実		
③PTA事業や地域行事等への積極的な参加、協力		
④開かれた学校づくり		